

地域で高校生を育てる仕組みを地域で支えるサポーター募集！ 高校生100人超参加「まきボラ」継続へ、キャンペーンを開始

一般財団法人まちと人と(宮城県石巻市、代表理事:斉藤誠太郎)は、2023年より高校生らが地域の企業や団体で活動するボランティアプログラム「まきボラ」を実施しています。これまで**54の企業や団体で131のボランティアを実施し、延べ411名の高校生・大学生が参加**しました。

2026年夏も21プログラムを実施予定で、参加者募集開始初日には40人の応募が集まるなど、高校生からも「地域で学ぶ機会」への関心が高まっています。しかし、**震災から15年を経て復興関連予算が終了し、年間約200万円の運営費確保が極めて困難**な状況に直面しています。このままでは、若者と地域をつなぐ貴重な学びの場が失われかねません。

私たちはこの学びの機会を継続させていくため、継続寄付を募るマンスリーサポーターの募集キャンペーンを開始します。キャンペーン最終日の9月11日までに、サポーター累計40名を目指します。

■地域を知る機会の少なさ ー震災から15年、石巻の課題

東日本大震災から15年。被災した宮城県石巻市は、震災後、ますます人口減少が進み、石巻は将来的に「消滅の可能性がある」自治体と言われています。今の高校生や大学生の親たちは、被災後苦勞を伴いながら生計を立て直してきた世代。その背中を見ながら育った若者たちは、**地元の魅力を知らないまま卒業し、都市部に出**てしまうことが多いです。

若者たちが地元の魅力を知り、誇りを持ってほしい。そんな思いで「まきボラ」はスタートしました。

■高校生にも、地域にも生まれる変化

「まきボラ」のコンセプトは「石巻で自分の好きを見つけるボランティア」。
高校生が地域の企業や団体でボランティアを行う中で、地域の大人と出会い、地域の魅力や自分自身の興味・関心に気づくことを目的としています。

実際に、まきボラ参加者の「地域への関心度合い(10段階評価)」平均値は参加前の6.85ptに対し**参加後は7.85ptと、1.00ptも上昇**しました。
(「まきボラ2026春」参加者事前・事後アンケートより)

参加者からは、「地域を知らない、知ろうとしていなかった自分にとって自ら知ろうとする機会だったのが本当によかった。一度知ることによって地域に興味がわいたり、面白いと感じる事ができた。」

事業所からも「積極的に活動し、場をより良いものにしてくれた」「職員・利用者共に良い刺激となり、施設自体が良い雰囲気となった」などの声があり、高校生との関わりが事業所にも好影響を生んでいます。



農園でのボランティアの様子



事業所と共に防災について学ぶ参加者

■地域との出会いが、高校生の「次の挑戦」につながる

まきボラでの体験は、その日限りで終わるものではありません。

昨年度、防災に取り組む団体で活動した高校生は「もっと同世代にも防災について知ってほしい」と感じました。まきボラ終了後、受入団体に自ら相談して、協力を受けながら学校で防災イベントを開催。自分たちで防災の大切さを身近な人に広める機会をつくりました。

このように、**地域との出会いが高校生自身の新たな挑戦につながる** 事例も生まれています。

さらに最近では、過去の参加者が「今度は支える側になりたい」と運営側のインターンシップに挑戦するケースも増えており、**学びの体験が地域への愛着と恩送りの精神を育む、持続可能な好循環** として定着し始めています。

■「体験」を「学び」に変える伴走

まきボラはボランティア当日だけではなく、活動目標を決める事前説明会、当日のサポートや活動後の振り返りまで、学びのために設計しています。

これを実現するため、事業所との活動内容の調整、さらに当日の活動に同行し高校生と事業所の橋渡し役となるインターン生の募集・育成まで多くの準備を行っています。

『まきボラ』は、全ての学生が公平に開かれた学びの場として、参加費無料で運営を継続してきました。しかし、震災から15年を経て復興関連予算が終了する今、**年間約200万円の運営費確保が困難**な状況に直面しています。このままでは、この貴重な学びの機会が消え、**地域の未来を担う若者の選択肢を狭めてしまう**と私たちは考えています。



インターン生への事前研修の様子

■地域みんなで、高校生の一步を支える仕組みへ

私たちはこの状況を単なる財政危機とは捉えず、**地域全体で教育インフラを維持する『自律的な運営モデル』への転換期**と位置づけています。

このモデル構築の第一歩として、この春には受入事業所の皆様とまきボラの未来を考える「まきボラ超！会議」を実施、11事業所が集まりました。

さらにより広く「まきボラ」を支える仕組みとして、マンスリーサポーターの募集を開始しています。月1,000円の継続寄付を1年間行っていただくと、**高校生1人がまきボラに参加する機会を創出**できます。

マンスリーサポーターの詳細について、<https://readyfor.jp/projects/machihito-monthly>もしくは右記QRコードからご覧ください。



「まきボラ超！会議」での話し合い



【取材について】2026年夏のまきボラは、8月4日(火)～11日(火)に各事業所にて実施します。活動中の高校生や受入先への取材、運営スタッフへのインタビューなどにも対応可能です。

【代表理事・斉藤からのメッセージ】

「まきボラ」を通じ、高校生の挑戦は大人たちを刺激し、「地元の高校生を応援したい」という共感の輪が少しずつ広がっていることを実感しています。この循環をこれからも生み続けるために、私たちだけでなく地域の皆様と一体となって活動を続けていけるよう、新たな挑戦を続けていきたいと思ひます。



代表理事
斉藤誠太郎

北海道出身、神戸大学卒。東日本大震災を機に石巻市へ移住し、2022年に「まちと人と」設立。

【一般財団法人まちと人と について】

「石巻地域のすべての若者が超！自己実現できるまちへ」をビジョンに掲げ、学校・行政・地域と連携しながら、高校生を中心とした若者の様々なチャレンジや成長をサポートする活動を行っています。

■主な事業

- ・石巻地域の高校での「総合的な探究の時間」サポート
- ・社会人との対話授業「ミライブラリー」の企画運営
- ・「まきボラ」「ムムム！」などの地域教育事業
- ・「高校生のためのいしのまき探究図鑑」の企画制作



■本件に関するお問合せ

一般財団法人まちと人と [担当: 佐々木・野内]
石巻市中央二丁目7-38石巻ガスビル3階
Tel: 0225(25)4085 Mail: info@machihito.jp

WEB



Instagram

